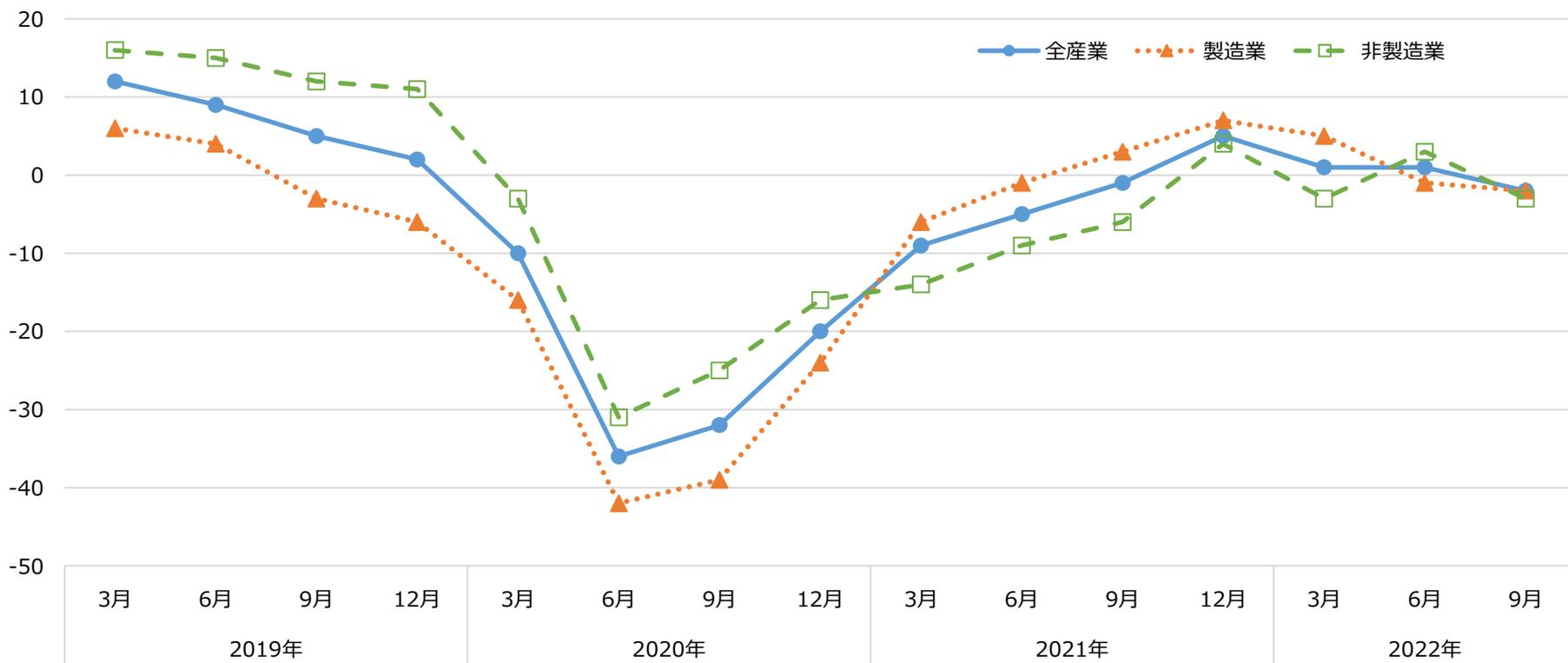


大阪都市魅力創造戦略関連施策 を取り巻く状況

業況判断DI (近畿)

- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けて企業の景況感（日銀短観 DI）は、2020年3月から6月にかけて急速に落ち込んだ。
- 2020年6月以降は緩やかな回復傾向にあったが、2022年3月に再度下落した。非製造業については、2022年6月に回復したものの、2022年9月見通しでは製造業とともに再度下落すると見込まれている。

業況判断DI (近畿地区)

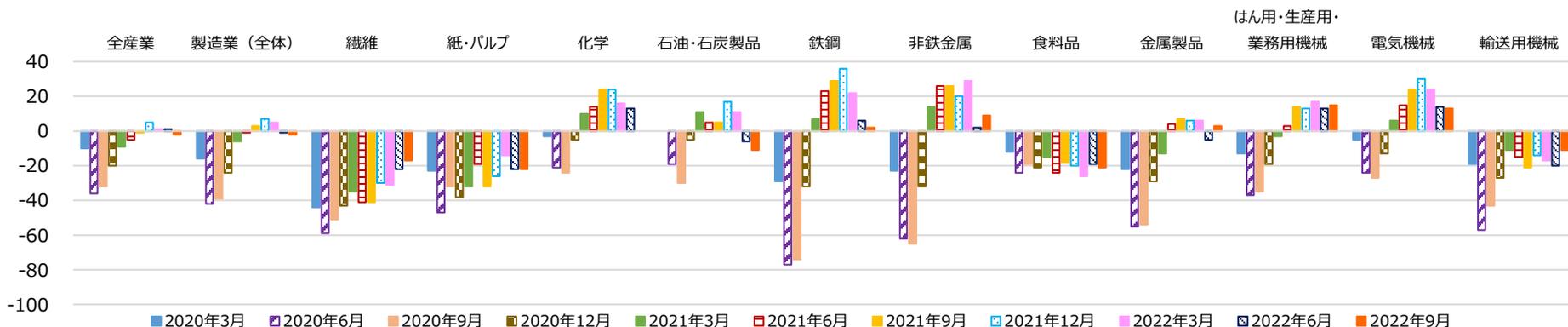


出典：日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査（近畿地区）」より作成
※2022年9月の数値は先行きDI

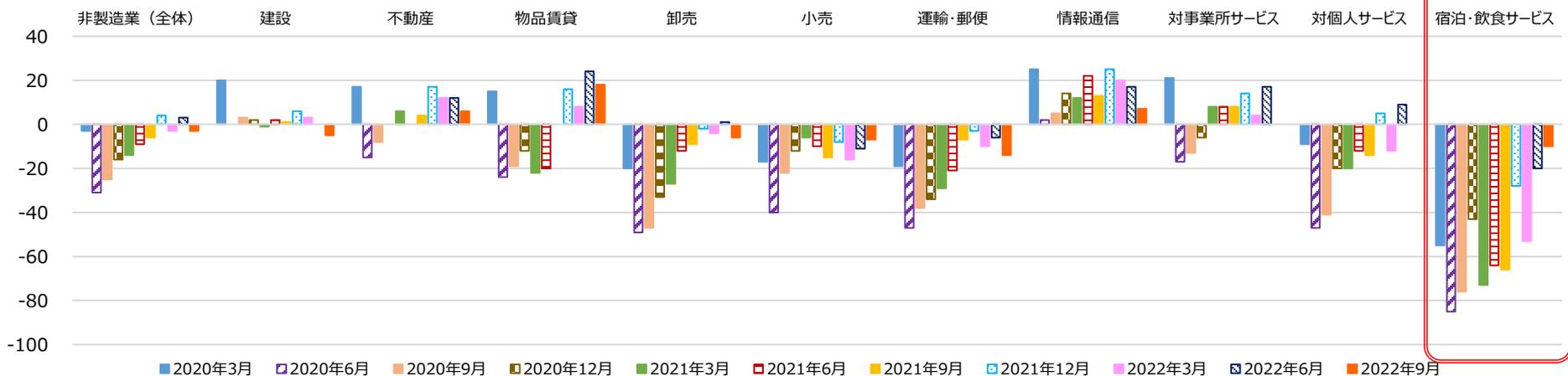
業種別DI (近畿)

- 近畿の景況感は、2021年12月にかけて全体的に持ち直しの傾向が見られたものの、2022年3月以降、全体的に下落傾向が見られる。
- また、宿泊・飲食サービスについては、依然として新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けているものの、改善傾向が見られる。

業種別業況判断 (近畿地区) [全産業、製造業]



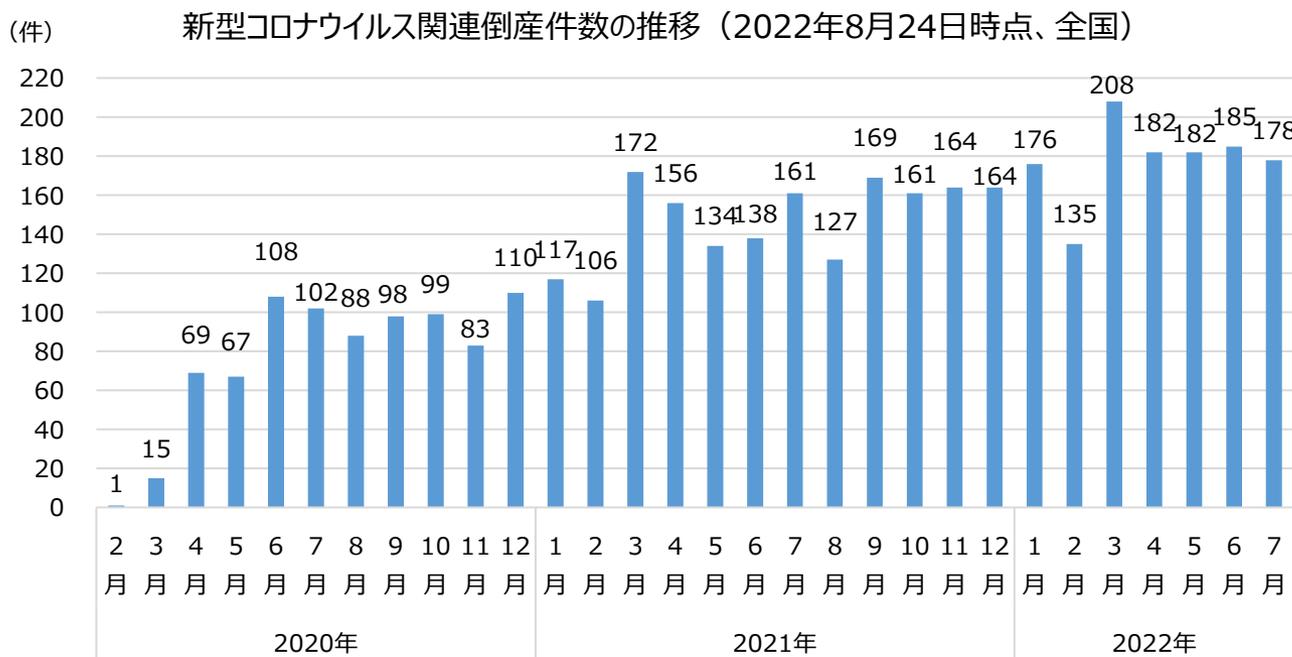
業種別業況判断 (近畿地区) [非製造業]



出典：日本銀行大阪支店「全国企業短期経済観測調査 (近畿地区)」より作成
 ※2022年9月の数値は先行きDI

倒産の動向（全国・大阪）

- 新型コロナウイルス感染症の拡大以降、実質無利子・無担保融資などの資金支援等により全体的な倒産件数は減少傾向。
- 一方、コロナ関連の倒産件数は引き続き高い水準にあり、2022年8月24日時点で、全国で3,936件（自主的な廃業は含まれていない）。大阪の倒産件数は、403件であり、東京に次いで2番目に多い。
- 業種別でみると、飲食店、食品卸、ホテル・旅館といった観光に関連する事業者の倒産が多い。



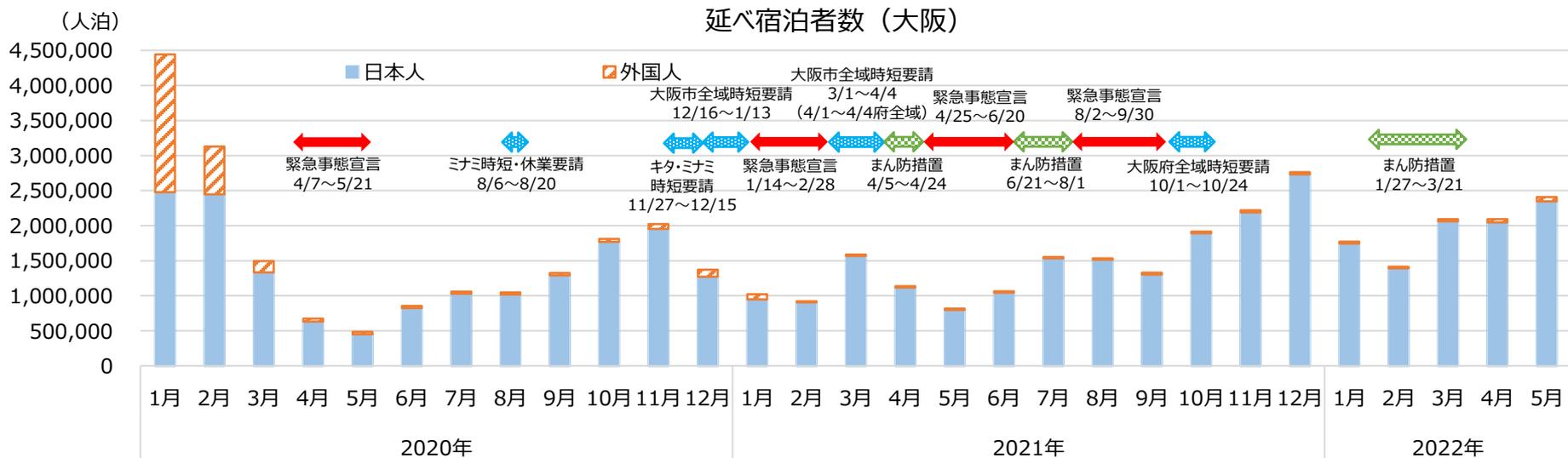
業種別コロナ関連倒産件数
（2022年8月24日時点累計、全国）

業種	件数	割合
飲食店	594	15.1%
建設・工事業	496	12.6%
食品卸	201	5.1%
ホテル・旅館	160	4.1%
食品小売	143	3.6%
アパレル小売	128	3.3%
アパレル卸	97	2.5%
自動車運送	96	2.4%
食品製造	95	2.4%
不動産	87	2.2%

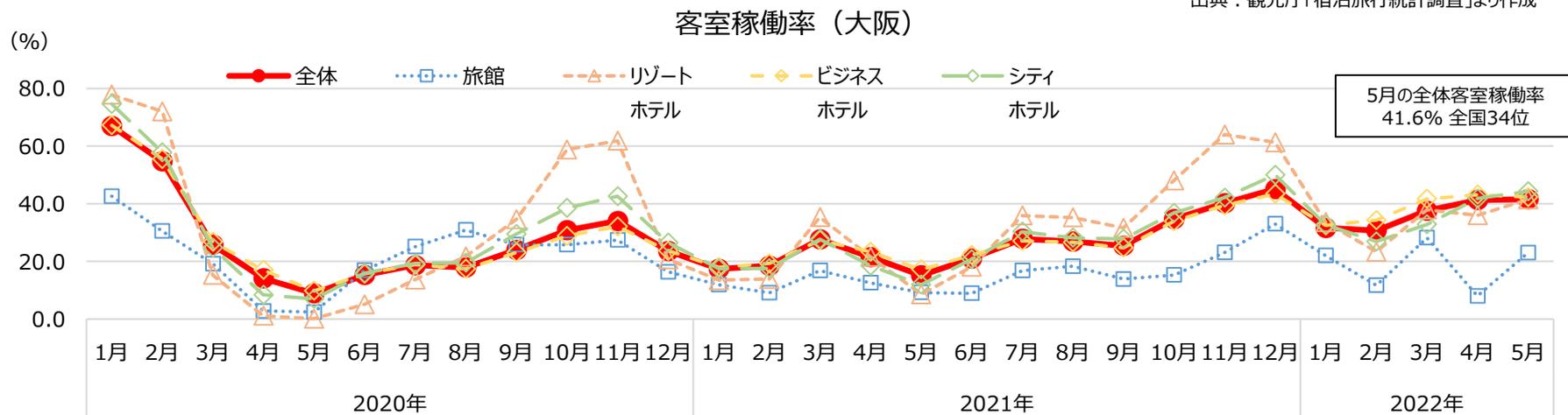
出典：帝国データバンク「全国企業倒産集計」、「新型コロナウイルス関連倒産」より作成

宿泊者数の状況（大阪）

- 新型コロナウイルス感染症の拡大により宿泊者数、客室稼働率は激減。
- 宿泊者数、客室稼働率とも、感染状況により増減を繰り返しており、直近では2022年3月以降緩やかな回復傾向にあるが、感染症再拡大による影響が懸念される。



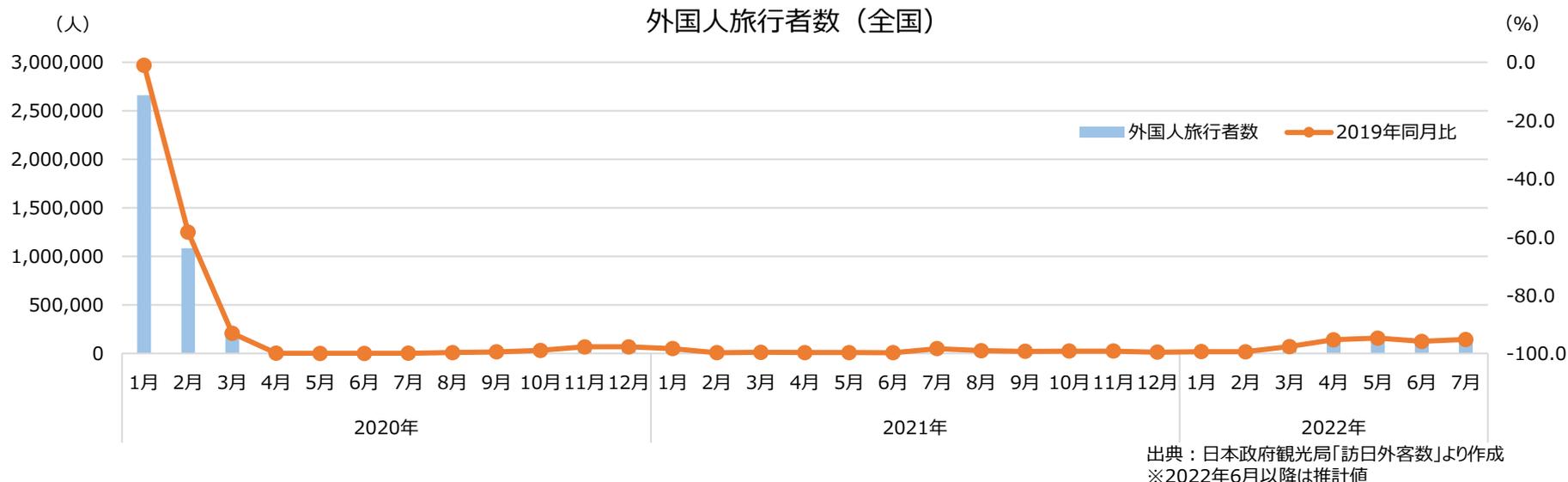
出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」より作成

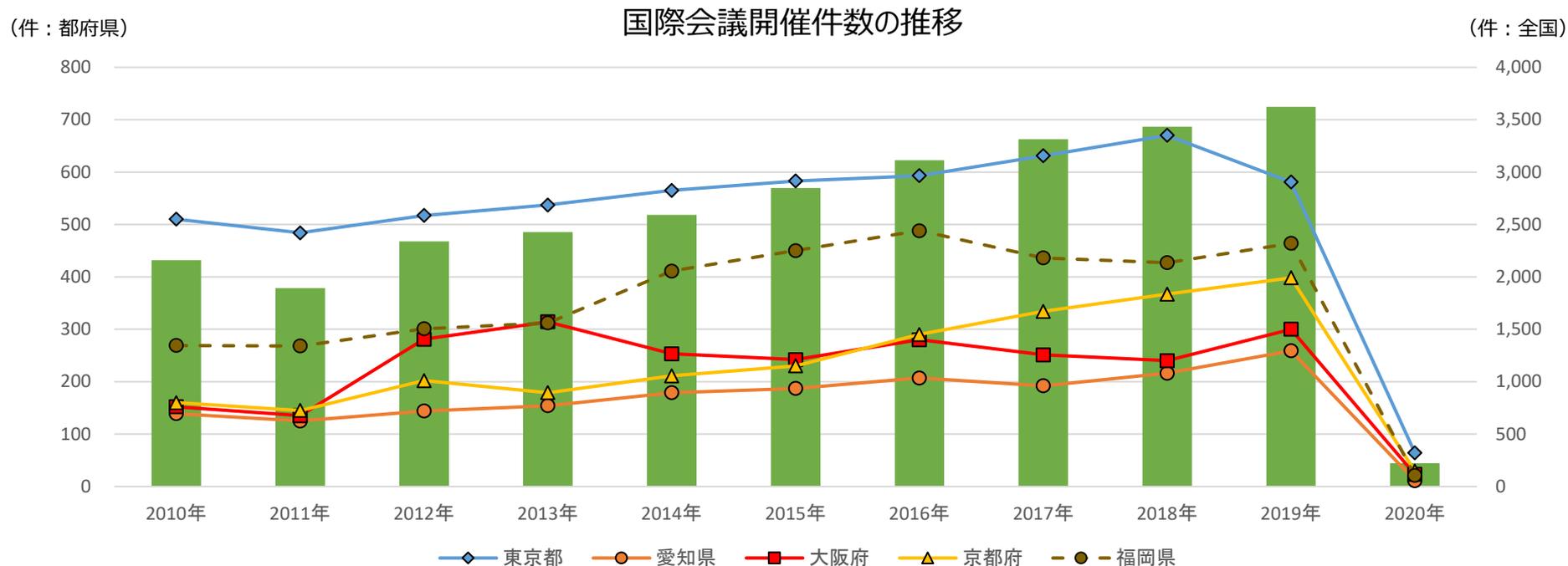
インバウンドの状況（全国・関西空港）

- 外国人旅行者数及び関西空港外国人入国者数は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う入国規制の影響により激減。
- 国際的な移動の制約が続き、2020年4月以降、インバウンド需要がほぼ消失。
- 2022年6月から外国人観光客の受入が一部再開されたが、感染症再拡大による影響が懸念される。



国際会議の開催件数（全国・国内主要都市）

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年の大阪における国際会議の開催件数は前年より大幅に減少し23件であった。



	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
東京都	510	484	517	537	565	583	593	631	670	581	64
愛知県	139	125	144	154	179	187	207	192	216	259	11
大阪府	152	135	281	314	253	242	280	251	240	300	23
京都府	160	145	202	179	211	230	290	334	367	398	29
福岡県	269	268	301	312	411	450	488	436	427	464	21
全国	2,159	1,892	2,337	2,427	2,590	2,847	3,112	3,313	3,433	3,621	222

出典：日本政府観光局（JNTO）「国際会議統計」より作成

世界における国際会議の開催状況（月別）

- 世界における国際会議は2020年、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、その多くが延期や中止となりオンラインでの開催に代替されることとなった。
- 2021年前半は引き続き、オンラインが大勢を占めていたが、2021年後半には、ハイブリッド（実地開催とオンラインを組み合わせたもの）や実地開催の割合が増加した。

<世界の国際会議の開催状況の推移>

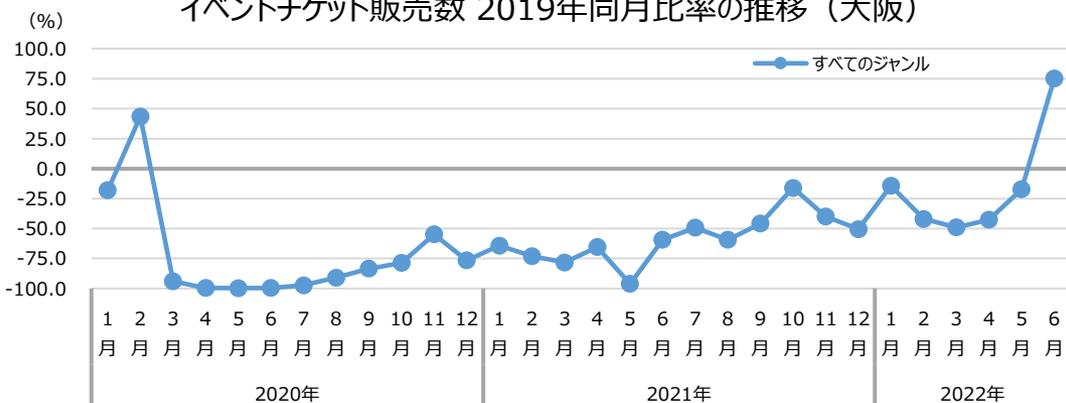
期間	オンライン	ハイブリッド	実地開催	開催地変更	延期	中止
2020年 (8,409件)	30% (2,505件)	2% (143件)	9% (763件)	1% (73件)	44% (3,714件)	14% (1,211件)
2021年 (7,908件)	47% (3,718件)	13% (1,040件)	7% (534件)	2% (127件)	27% (2,157件)	4% (332件)
1月	60%	5%	2%	3%	22%	8%
2月	65%	4%	2%	2%	24%	4%
3月	57%	5%	0%	3%	27%	7%
4月	62%	5%	1%	2%	25%	6%
5月	59%	4%	1%	1%	31%	4%
6月	59%	6%	1%	1%	29%	4%
7月	55%	10%	3%	1%	27%	4%
8月	50%	13%	5%	1%	28%	2%
9月	43%	19%	9%	1%	25%	3%
10月	37%	25%	15%	1%	19%	3%
11月	36%	27%	19%	1%	13%	3%
12月	38%	31%	16%	1%	10%	4%

出典：国土交通省「令和4年版 観光白書」より作成

文化芸術分野の状況

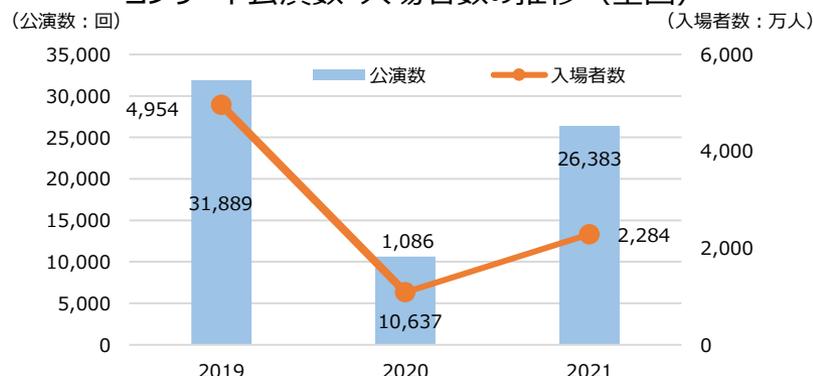
- ▶ 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う開催制限要請（人数上限や収容率等の設定）などの影響により、イベントの中止・延期などが相次いだ。2021年度は回復傾向にあるものの、入場者数はコロナ前の半分以下の水準にとどまる。
- ▶ 2021年下半期より、イベントチケット販売数は回復傾向にあるが、文化庁による世論調査によると、2021年度に文化芸術イベントを直接鑑賞したことがある人の割合は39.7%と、コロナ前の2019年度と比較して27.6ポイント低下している。

イベントチケット販売数 2019年同月比率の推移（大阪）



出典：内閣府「V-RESAS イベントチケット販売数」より作成

コンサート公演数・入場者数の推移（全国）



出典：一般社団法人コンサートプロモーターズ協会「ライブ市場調査」より作成

この1年間に直接鑑賞した文化芸術イベント（全国）	2019年度	2020年度	2021年度	この1年間で文化芸術イベントを直接鑑賞しなかった理由（全国）	2019年度	2020年度	2021年度
文化芸術イベントを直接鑑賞した	67.3%	41.8%	39.7%	新型コロナウイルス感染症の影響により、公演や展覧会などが中止になった、又は外出を控えたから	—	56.8%	37.6%
映画（アニメーション映画を除く）	36.2%	20.9%	17.6%	関心がない	34.7%	23.2%	22.8%
歴史的な建物や遺跡	26.6%	13.8%	11.6%	近所で公演や展覧会などが行われていない	16.3%	13.7%	16.3%
美術	23.6%	11.4%	10.9%	入場料・交通費など費用がかかりすぎる	15.2%	8.4%	11.9%
アニメーション映画	13.9%	11.2%	9.6%	テレビ、ラジオ、CD・DVD、インターネットなどにより鑑賞できる（鑑賞した）ので	11.2%	9.0%	7.9%
ポップス、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、民俗音楽等	18.5%	5.7%	8.9%	一緒に行く仲間がない	8.1%	4.3%	5.3%
歴史系の博物館、民俗系の博物館、資料館等	16.5%	7.7%	6.6%	魅力ある公演や展覧会などが少ない	11.5%	7.4%	5.1%
オーケストラ、室内楽、オペラ、合唱、吹奏楽など	13.4%	4.6%	6.1%				
ミュージカル	7.9%	3.0%	2.7%				
演芸	6.0%	2.4%	2.3%				

出典：文化庁「文化に関する世論調査報告書（令和4年3月）」より作成

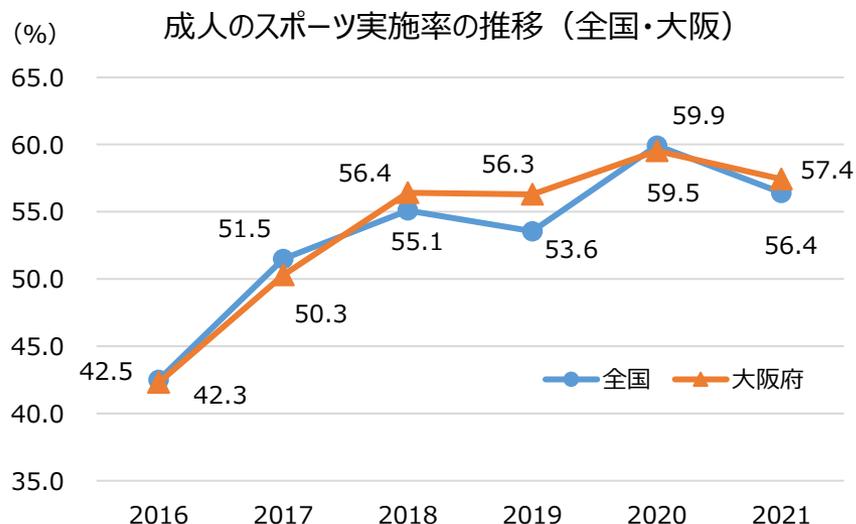
スポーツ観戦、実施の状況

- スポーツの試合や大会においても中止・延期や無観客開催などにより、スポーツを観戦する機会が減少している。
- 成人のスポーツ実施率は、新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年度に比べて、2020年度は増加したが、2021年度はやや減少した。



7チーム：ガンバ大阪、セレッソ大阪、オリックス・バファローズ、阪神タイガース(京セラドームでの試合のみ)、大阪エヴェッサ、近鉄ライナーズ、NTTドコモレッドハリケーンズ大阪

出典：各チーム公表資料より作成



出典：スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」
※大阪の数値は、ローデータより算出

この1年間に直接現地観戦したスポーツ種目 (全国)	2019年度	2020年度	2021年度
プロ野球 (NPB、メジャーリーグ含む)	13.7%	9.9%	6.8%
Jリーグ (J1、J2、J3)	5.1%	3.9%	2.8%
高校野球	4.7%	3.0%	2.6%
サッカー日本代表	1.8%	1.3%	1.3%
その他野球、ソフトボール	2.1%	1.7%	1.2%
ゴルフ	1.9%	1.4%	1.1%
マラソン、駅伝	2.3%	1.8%	1.1%
ラグビー (トップリーグ、大学・高校ラグビー、海外ラグビーを含む)	2.7%	1.9%	1.0%

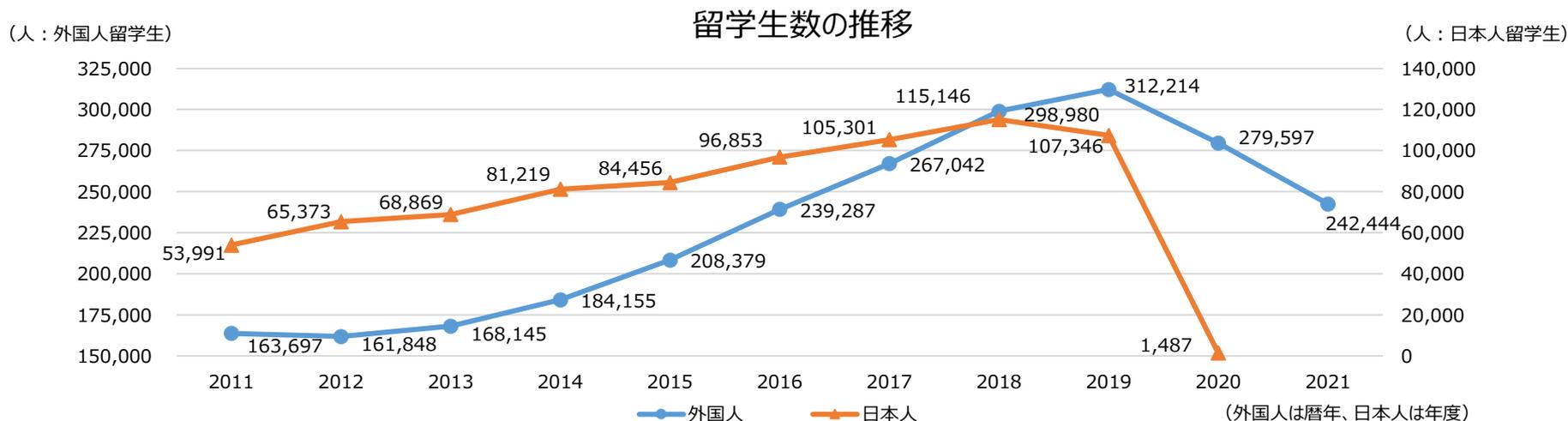
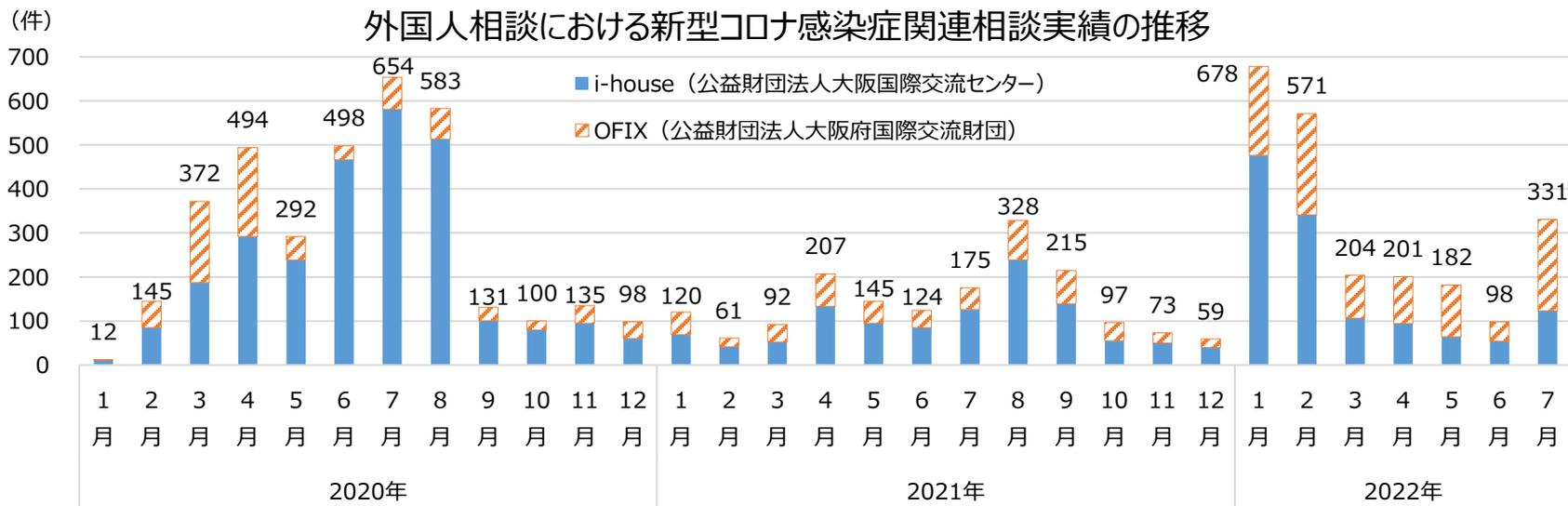
出典：スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」より作成

この1年間に運動やスポーツを実施した理由 (全国)	2019年度	2020年度	2021年度
健康のため	73.9%	79.6%	76.2%
体力増進・維持のため	53.9%	57.7%	52.0%
運動不足を感じるから	51.5%	53.7%	48.1%
楽しみ・気晴らしとして	43.8%	46.0%	42.1%
筋力増進・維持のため	37.7%	40.4%	35.7%
肥満解消、ダイエットのため	30.4%	33.1%	29.9%
友人・仲間との交流として	20.0%	16.6%	14.7%

出典：スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」より作成

外国人相談、留学生の状況

- 大阪府・市の外国人相談において、2020年1月以降、新型コロナウイルス感染症関連の相談が急増。2022年1月～2月はオミクロン株の影響を受けて相談が増加。
- 新型コロナウイルス感染症が世界的に拡大し、日本政府及び各国政府による渡航制限等の措置により、留学生数は減少に転じている。



出典：日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」「日本人学生留学生状況調査」より作成

(参考) GDP成長率 (内閣府年央試算)

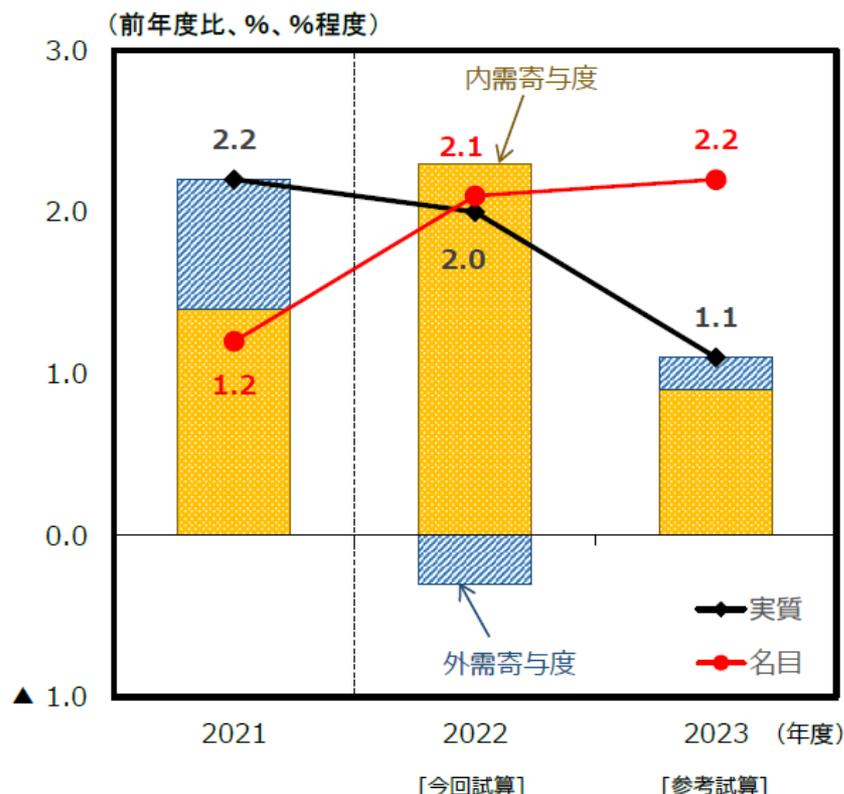
- **2022年度**は、海外経済の減速等により外需が押下げ要因となる一方、コロナ禍からのサービス消費の回復が見込まれること等により、GDP成長率は**実質で2.0%程度、名目で2.1%程度**と見込まれる。
- **2023年度**は、コロナ禍からの回復ペースが巡航速度に戻る中で、消費と投資が着実に増加していくことにより、GDP成長率は**実質で1.1%程度、名目で2.2%程度**と見込まれる。

(内閣府「令和4(2022)年度 内閣府年央試算」)

○主要経済指標

	2021年度	2022年度		2023年度
	実績 (%)	政府経済見通し (%程度)	今回試算 (%程度)	参考試算 (%程度)
実質GDP	2.2 537.4兆円	3.2 556.8兆円	2.0 548.4兆円	1.1 554.7兆円
民間消費	2.6	4.0	3.6	2.0
民間企業設備	0.8	5.1	2.2	3.9
内需寄与度	1.4	3.0	2.3	0.9
外需寄与度	0.8	0.2	▲ 0.3	0.2
名目GDP	1.2 541.8兆円	3.6 564.6兆円	2.1 553.1兆円	2.2 565.1兆円
GDPデフレーター	▲ 1.0	0.4	0.0	1.0
消費者物価(総合)	0.1	0.9	2.6	1.7
完全失業率	2.8	2.4	2.4	2.3

○GDP成長率と寄与度

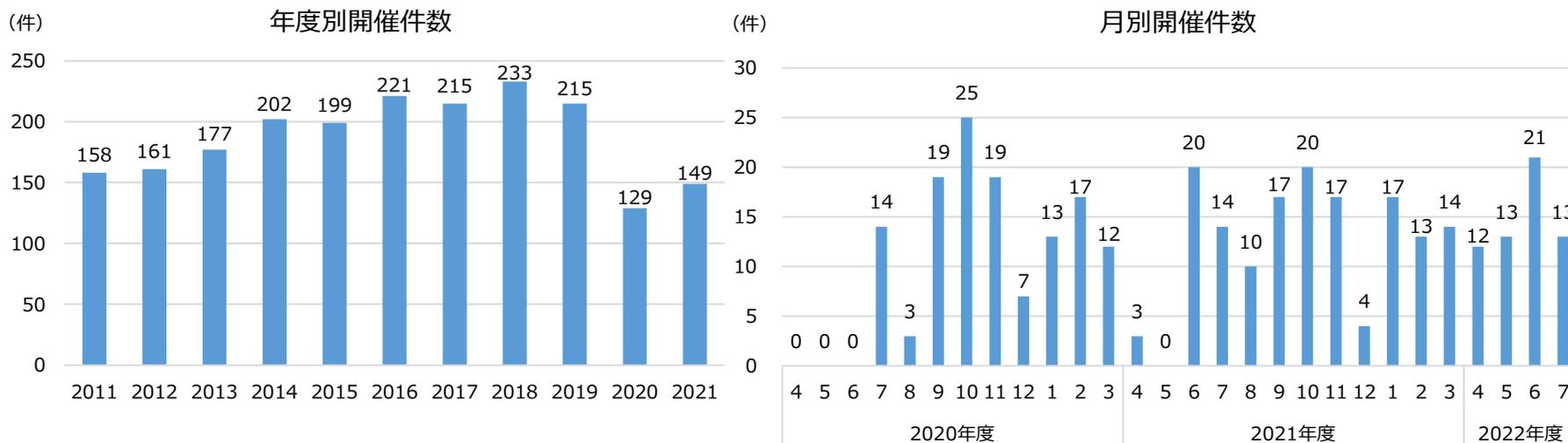


出典：内閣府「令和4(2022)年度 内閣府年央試算」

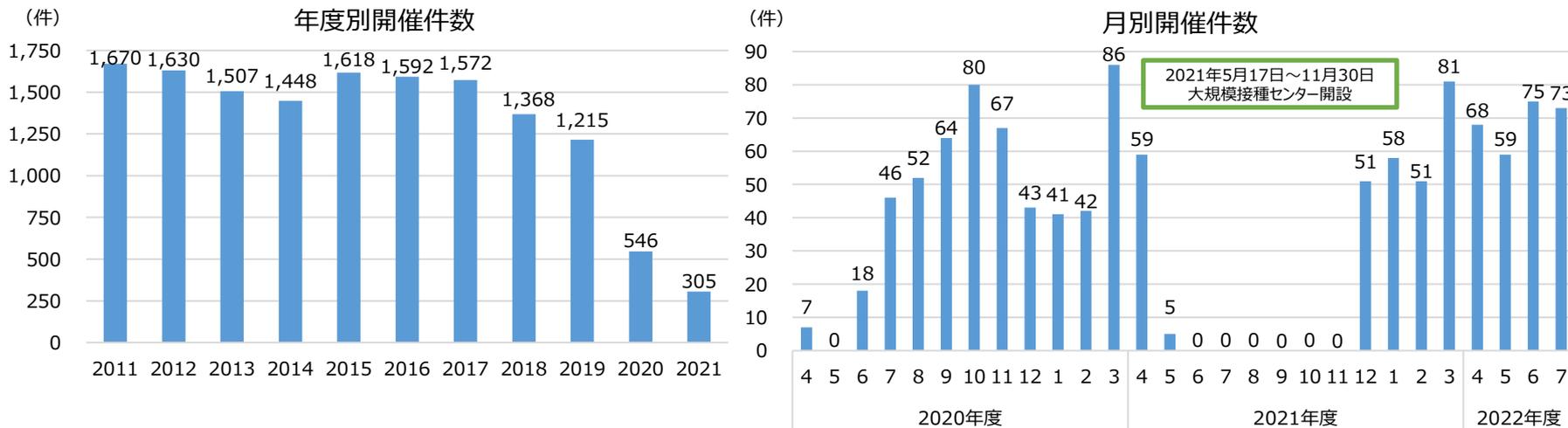
(参考) MICE 関連施設 (インテックス大阪、グランキューブ大阪) における催事等開催状況

- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う大型イベント開催自粛要請を契機に、大小を問わず多くのMICE案件が中止・延期となった。
- インテックス大阪やグランキューブ大阪では、緊急事態宣言や大規模接種センター開設により催事等開催件数が0となるなど、大きな影響を受けている。

<インテックス大阪 催事等開催状況 (インテックス大阪にヒアリング) >



<グランキューブ大阪 催事等開催状況 (グランキューブ大阪にヒアリング) >



(参考) シンクタンク等による大阪のポジション分析

- シンクタンク等による大阪のポジション、強い分野、今後の方向性等の分析を整理
- 総合的な評価では48都市中36位。比較的優位なものは、「研究・開発」、「文化・交流」、「居住」の指標

(世界の都市総合ランキング2021 (森記念財団都市戦略研究所))

「世界の都市総合ランキング 2021」(森記念財団都市戦略研究所)

【総合ランキング2021】

		2021	前年からの変動	2020	2019
総合ランキング		36位	▲ 3	33位	29位
分野別	経済	37位	+ 1	38位	35位
	研究・開発	18位	—	18位	17位
	文化・交流	20位	+ 1	21位	19位
	居住	21位	▲ 3	18位	13位
	環境	42位	▲ 1	41位	36位
	交通・アクセス	39位	▲ 4	35位	35位

1位 ロンドン	21位 チュールヒ	41位 テリアビブ
2位 ニューヨーク	22位 ストックホルム	42位 福岡
3位 東京	23位 サンフランシスコ	43位 サンパウロ
4位 パリ	24位 ブリュッセル	44位 メキシコシティ
5位 シンガポール	25位 フランクフルト	45位 ジャカルタ
6位 アムステルダム	26位 シカゴ	46位 カイロ
7位 ベルリン	27位 ボストン	47位 ヨハネスブルグ
8位 ソウル	28位 ダブリン	48位 ムンバイ
9位 マドリード	29位 バンクーバー	
10位 上海	30位 ヘルシンキ	
11位メルボルン	31位 ジェバ	
12位 シドニー	32位 モスクワ	
13位 香港	33位 ミラノ	
14位 ドバイ	34位 イスタンブール	
15位 コペンハーゲン	35位 バンコク	
16位 ロサンゼルス	36位 大阪	
17位 北京	37位 ワシントンDC	
18位 バルセロナ	38位 台北	
19位 ウィーン	39位 クアラルンプール	
20位 トロント	40位 ブエノスアイレス	



(参考) シンクタンク等による大阪のポジション分析 (個別分野の視点からの分析)

世界で最も住みやすい都市ランキング 2022 ※英誌「エコノミスト」	世界の都市の安全指数ランキング2021 ※英誌「エコノミスト」	世界で最も魅力的な都市ランキング 2021 ※米誌「コンデナンス・トラベラー」																																																																								
・前回2位、治安、医療、教育において高評価	・前回3位、医療インフラ、インフラの安全性は高評価、個人の安全性やサイバーセキュリティ面はやや低評価	・米国を除く世界の大都市部門において2位(昨年ランク外)																																																																								
<table border="1"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>都市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1位</td><td>ウィーン</td></tr> <tr><td>2位</td><td>コペンハーゲン</td></tr> <tr><td>3位</td><td>チューリッヒ</td></tr> <tr><td>3位</td><td>カルガリー</td></tr> <tr><td>5位</td><td>バンクーバー</td></tr> <tr><td>6位</td><td>ジュネーブ</td></tr> <tr><td>7位</td><td>フランクフルト</td></tr> <tr><td>8位</td><td>トロント</td></tr> <tr><td>9位</td><td>アムステルダム</td></tr> <tr><td>10位</td><td>大阪</td></tr> <tr><td>10位</td><td>メルボルン</td></tr> </tbody> </table>	順位	都市	1位	ウィーン	2位	コペンハーゲン	3位	チューリッヒ	3位	カルガリー	5位	バンクーバー	6位	ジュネーブ	7位	フランクフルト	8位	トロント	9位	アムステルダム	10位	大阪	10位	メルボルン	<table border="1"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>都市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1位</td><td>コペンハーゲン</td></tr> <tr><td>2位</td><td>トロント</td></tr> <tr><td>3位</td><td>シンガポール</td></tr> <tr><td>4位</td><td>シドニー</td></tr> <tr><td>5位</td><td>東京</td></tr> <tr><td>6位</td><td>アムステルダム</td></tr> <tr><td>7位</td><td>ウェリントン</td></tr> <tr><td>8位</td><td>香港</td></tr> <tr><td>9位</td><td>メルボルン</td></tr> <tr><td>10位</td><td>ストックホルム</td></tr> <tr><td>⋮</td><td>⋮</td></tr> <tr><td>17位</td><td>大阪</td></tr> </tbody> </table>	順位	都市	1位	コペンハーゲン	2位	トロント	3位	シンガポール	4位	シドニー	5位	東京	6位	アムステルダム	7位	ウェリントン	8位	香港	9位	メルボルン	10位	ストックホルム	⋮	⋮	17位	大阪	<table border="1"> <thead> <tr> <th>順位</th> <th>都市</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1位</td><td>東京</td></tr> <tr><td>2位</td><td>大阪</td></tr> <tr><td>3位</td><td>京都</td></tr> <tr><td>4位</td><td>シンガポール</td></tr> <tr><td>5位</td><td>イスタンブール</td></tr> <tr><td>6位</td><td>メリダ (メキシコ)</td></tr> <tr><td>7位</td><td>マラケシュ (モロッコ)</td></tr> <tr><td>8位</td><td>ポルト (ポルトガル)</td></tr> <tr><td>9位</td><td>バンコク</td></tr> <tr><td>10位</td><td>ソウル</td></tr> </tbody> </table>	順位	都市	1位	東京	2位	大阪	3位	京都	4位	シンガポール	5位	イスタンブール	6位	メリダ (メキシコ)	7位	マラケシュ (モロッコ)	8位	ポルト (ポルトガル)	9位	バンコク	10位	ソウル
順位	都市																																																																									
1位	ウィーン																																																																									
2位	コペンハーゲン																																																																									
3位	チューリッヒ																																																																									
3位	カルガリー																																																																									
5位	バンクーバー																																																																									
6位	ジュネーブ																																																																									
7位	フランクフルト																																																																									
8位	トロント																																																																									
9位	アムステルダム																																																																									
10位	大阪																																																																									
10位	メルボルン																																																																									
順位	都市																																																																									
1位	コペンハーゲン																																																																									
2位	トロント																																																																									
3位	シンガポール																																																																									
4位	シドニー																																																																									
5位	東京																																																																									
6位	アムステルダム																																																																									
7位	ウェリントン																																																																									
8位	香港																																																																									
9位	メルボルン																																																																									
10位	ストックホルム																																																																									
⋮	⋮																																																																									
17位	大阪																																																																									
順位	都市																																																																									
1位	東京																																																																									
2位	大阪																																																																									
3位	京都																																																																									
4位	シンガポール																																																																									
5位	イスタンブール																																																																									
6位	メリダ (メキシコ)																																																																									
7位	マラケシュ (モロッコ)																																																																									
8位	ポルト (ポルトガル)																																																																									
9位	バンコク																																																																									
10位	ソウル																																																																									
出典：Economist Intelligence「The Global Liveability Index 2022」より作成	出典：第2回「副首都ビジョン」のバージョンアップに向けた意見交換会（2022.1.20）資料より転載	出典：第2回「副首都ビジョン」のバージョンアップに向けた意見交換会（2022.1.20）資料より転載																																																																								

(参考) 国内の都市ランキング (日本の都市特性評価)

- 森記念財団都市戦略研究所による「日本の都市特性評価2022 (国内都市ランキング)」で、東京を除く国内138主要都市の中で、大阪市が総合1位にランクイン
- 「経済・ビジネス」、「研究・開発」、「文化・交流」、「交通・アクセス」の4つの分野で高い評価を得た

■ 2022年のトップ5

総合順位	総合ランキング		経済・ビジネス		研究・開発		文化・交流		生活・居住		環境		交通・アクセス	
	都市名	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア	分野順位	スコア
1位	大阪市	1,242.8	1位	268.8	6位	67.9	2位	305.6	80位未満		80位未満		1位	218.8
2位	京都市	1,167.7	39位	162.1	2位	100.4	1位	314.1	49位	303.2	80位未満		11位	154.3
3位	福岡市	1,147.7	5位	204.4	5位	68.0	4位	201.4	3位	348.1	67位	149.3	3位	176.5
4位	横浜市	1,140.5	6位	198.2	3位	76.1	3位	272.8	56位	298.6	80位未満		10位	154.9
5位	名古屋市	1,131.7	4位	207.9	1位	112.7	6位	180.0	22位	319.9	80位未満		2位	187.6

■ ランキング年次推移 (上位3都市)



■ 「日本の都市特性評価 (国内都市ランキング)」とは

- 一般社団法人 森記念財団 都市戦略研究所が、国内都市の総合力を毎年度評価し、公表 (最新版は2022年版)
- 対象都市は、東京を除く国内138の主要都市。(対象都市：政令指定都市、県庁所在市、人口17万人以上の都市) ※東京23区は別途評価
- 6分野、26指標グループで評価しており、総指標数は86

2018 2019 2020 2021 2022

出典：森記念財団 都市戦略研究所「日本の都市特性評価 2022」より作成

(参考) 入国時検査及び入国後待機期間の見直し

<入国時検査・入国後の待機期間（令和4年7月28日以降）>

滞在していた 国・地域の区分	国・地域の数	有効なワクチン 接種証明書	入国時の検疫措置		
			出国前 検査	到着時 検査	待機
青	102か国・地域 (米国、英国、中国、韓国、他)	問わない	○	×	×
黄	97か国・地域 (ベトナム、インド、他)	あり	○	×	×
		なし	○	○	自宅3日間 ※1
赤	2か国・地域 (アルバニア、シエラレオネ)	あり	○	○	自宅3日間 ※1
		なし	○	○	施設3日間 ※2

※1. 待機3日目に検査を受検し陰性を確認した場合。検査を受検しない場合は5日間

※2. 施設待機3日目に検査を受検し陰性であれば、待機解除

(参考) ワクチン接種の状況

- 2021年4月からワクチン接種を開始し、大阪府における3回目の接種率については、全年齢で約6割、高齢者で約9割となっている。
- 2022年5月から4回目接種が開始されている。

大阪府 (8月21日時点)	全 体		うち高齢者 (65歳以上)	
	回 数	接種率 (うち5歳以上*1)	回 数	接種率
合 計	20,121,071	—	7,677,772	—
1回接種者	6,888,265	77.9% (79.7%)	2,218,169	93.0%
2回接種者	6,847,210	77.5% (79.3%)	2,212,466	92.7%
3回接種者	5,081,563	57.5% (59.3%)	2,110,369	88.5%
4回接種者	1,304,033	14.8% (15.3%)	1,136,768	47.7%
全 国 (8月24日時点)	全 体		うち高齢者 (1～3回目：65歳以上・4回目：60歳以上)	
	回 数	接種率 (うち5歳以上*1・2)	回 数	接種率
合 計	311,403,133	—	118,705,140	—
1回接種者	104,060,582	82.2% (83.4%)	33,281,190	93.0%
2回接種者	102,649,968	81.0% (82.9%)	33,191,564	92.8%
3回接種者	81,191,066	64.1%	32,417,882	90.6%
4回接種者	23,501,517	—	21,692,311	50.2% (65.2%)*3

*1.小児接種 (5～11歳) については、2022年3月開始

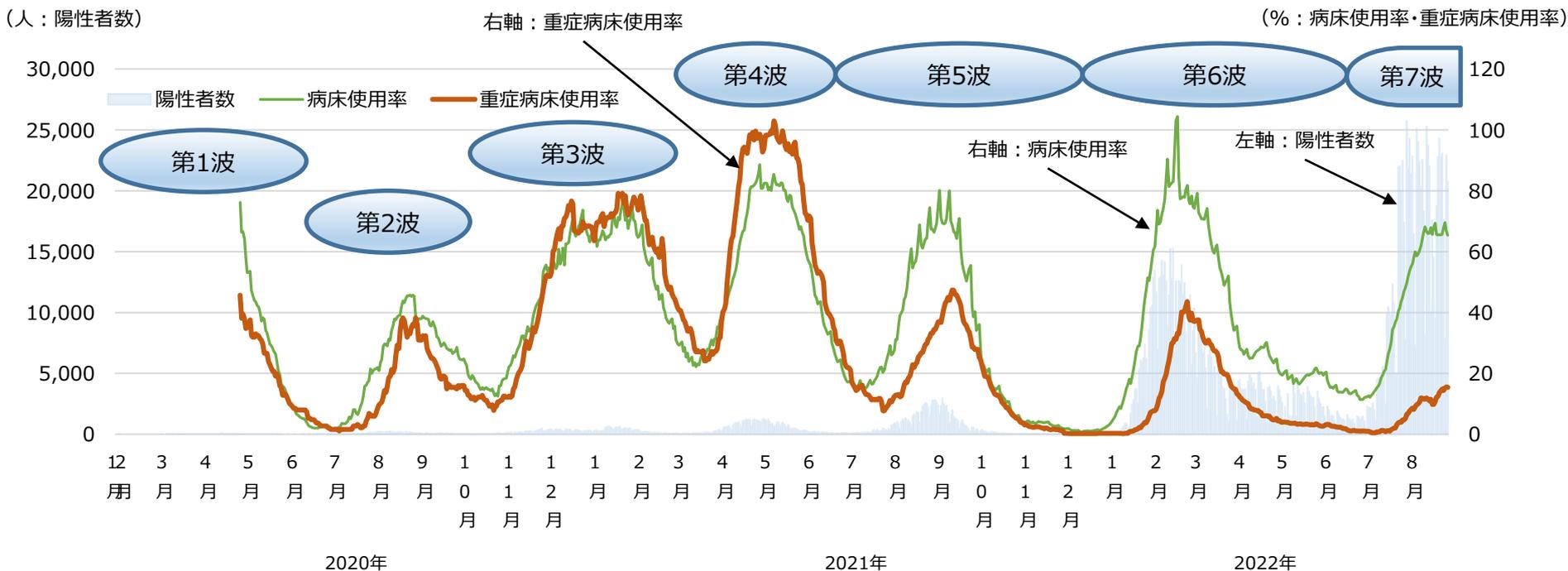
*2.8月22日時点

*3.対象者数 (3回目接種から5か月経過した60歳以上の者) に対する接種率

出典：大阪府「ワクチン接種状況等について」、首相官邸「新型コロナワクチンについて」より作成

(参考) 大阪府 新規陽性者数と病床使用率・重症病床使用率の推移

- 一昨年来、繰り返し新型コロナウイルス感染症が拡大し、休業や営業時間短縮などを要請。
- 感染力の強い「オミクロン株」のBA.5系統への置き換わりが進んできていることなどにより、2022年7月以降、新規陽性者数が急速に増加している。



出典：大阪府「新型コロナウイルス感染症対策サイト」より作成